

デンソー

本物追求の 意思表明

それまでのデンソー製カー用品とは、やはり少し違っていた。2010年を象徴する、大ヒット作。市販製品に対するここに来ての積極的な試みの背景には、会社全体に通じる、とある考えがあった。



車載用プラズマクラスター イオン発生機

株式会社デンソー

Award



選出理由 車内空気清浄の新習慣を決定づける圧倒的な支持を得た

車内に適した設計で 菌や付着臭まで除去

ドリンクホルダーにすっぽり収まるサイズのプラズマクラスターイオン発生機。高濃度のプラズマクラスター発生ユニットを使い、空気中のカビ菌を除去し、ウィルスの作用を抑制。それ以外にも、美肌効果が期待できるなど、車内空気そのものを改善してくれる。



未来の可能性を切り拓く
門出を飾った大ヒット

スパークプラグやエアコンフィルターを始め、かつてより市販用品を手掛けてきたデンソーだが、一般カーユーザー向けにその名を知られる機会は限られていた。何よりの主力製品が、クルマを買った際には当たり前のように装備される純正カーエアコンだったためだ。

しかしその名は、現代のクルマを支える必要不可欠な存在として、日本はもちろん世界の隅々まで、くまなく行き届いている。「シエアで言えば、国内で60%ぐらいでしょうか。グローバルで見ても、30%を占めていると思います。少なくとも、製品を納入していないカー

メーカーは見当たりません。それでも、エアコンがカーキラーと呼ばれていた昭和四十年代は、今みたいに標準装備品ではなく、後付けでしたから、元々我々のDNAには後付け市販品があるんです。ちょっと忘れ去られていただけであって、今原点帰りをしてるだけなんですよね。

そもそも市販車載用プラズマクラスターイオン発生機のリリースも、デンソーは早かった。「2003年には市販を開始しました。ただその時は、市場でも『え？』っていうような反応が多かったと思うんですよ」。当時時はまだ、時期的に早



空調冷熱事業部
市販開発室
担当係長

阿部行孝氏

技術部門も一緒になって
お客さんの声をダイレクトに聞きながら
やっていこうという風潮が
会社全体としてあります。

「今までであれば、製品が出
て動かし出す。開発は急ピツ
チで動き出した。」
「今までであれば、製品が出
て動かし出す。開発は急ピツ
チで動き出した。」



市販開始は今から8年前にもなる。初代のプ
ラズマクラスターイオン発生機。ボディ前
面のロゴを見て分かる通り、車載プ
ラズマクラスターの先駆けともなったモデルだ。



写真は開発時の試作機。ベースは家庭用の
プラズマクラスターイオン発生機にあるも
の、車載で使う上では外せないノウハウ
等は、デンソーより厳しくリストアップさ
れ、該当箇所はあらゆる点に及んだ。

来あがるまでに数年掛かるの
が当然でした。それを、いま
までのデンソーの歴史をゴロッ
と変えるような開発ステップ
で進化したのが今回で、数カ
月で商品化にこぎつきました。
とにかくスピードを優先し
ました。この時期にやらない
と時期を逃すという強い思い
がありましたし。」

フルエンザや新型インフルエ
ンザが騒がれ出した、今から
3年ほど前のこと。この時、
市販開発室というアクセサ
リーパーツ専門の部署が始
動。時勢をにらみ、プラズマ
クラスターイオン発生機の再
販が検討され、開発は急ピツ
チで動き出した。

「車載用と記載する以上、ク
ルマの専門家として絶対譲れ
ない点があります。
家電メーカーさんからする
と、電気はコンセントから常
に供給されるという意識かも
しれませんが、我々からすれ
ば有限で、バッテリー分しか
ない。キープ後も、シガー
ライターソケットの電源が切
れないクルマはまだ結構あり
ますし、一晩おくとバッテ
リーが上ががる例もありえま

す。そこで、デンソー品は自
動オフタイマー機能付きにし
ています。
一般的にクルマでキーにな
るのは、熱、振動、電気と、
この3つの問題をどうやって
解決するかがすべてですね。
走る、止まる、曲がるといっ
たところに影響を及ぼすわけ
にはいきませんので。」

特に車両火災やクルマの機
能停止に関わることは、絶対
に避けなければいけない。難
燃性の部品を使うのは絶対
で、何かが起きた際にもちゃ
んと逃げ出せるだけの時間を
用意しないとイケない。
我々のデンソーブランドが
付いている物に対しては、絶
対安全性を担保する。その思
想は曲げません。」

「全国にデンソー販売があり
ます。そこで、全国津々浦々、ど
こでもサポートできる体制を
取っています。ここなども企業
規模を活かした利点ですね。」
ここで培われた開発スピー
ドは、今後にも活かしてくるは
ずだ。
「技術部門も一緒になってお

ますので、全国津々浦々、ど
こでもサポートできる体制を
取っています。ここなども企業
規模を活かした利点ですね。」
ここで培われた開発スピー
ドは、今後にも活かしてくるは
ずだ。
「技術部門も一緒になってお

客さんの声をダイレクトに聞
きながらやってこうという風
潮が、会社全体としてあるん
ですね。
お客さん目線で快適を追求
するのであれば、空気をキレ
イにするだけじゃ駄目でしょ
うし、そこには冷やす、暖め
るといった考えも当然あるは
ずです。
OEMで培った我々のノウ
ハウを、お客さんにちゃんと
還元していきたいと思ってい
ますし、今後も本物志向で行
きたいと思えます。」

人体に直接当たるように吹き
出し口を設定するシャープ製
の家電モデルとは違い、車載
用は空調の流れに沿って車内
の隅々に運ばれるよう設計さ
れた。自社製カーエアコンを
前提に、お馴染みのエアコン
フィルターも含め、空調をト
ータルで考えるシナリオの
一環に本製品はあるのだ。

2003年ユニット



ベースとなるユニット部分は、2003年
当時の先行モデルより随分と開発が進
み、より高濃度のイオン発生が可能に
なっている。技術的にも、より効果を体
感しやすくなっているのは間違いない。

現ユニット



プラズマクラスターイオンの発生には
高電圧が前提とされるため、車載機器
への影響を避けるためにも、ノイズを
抑制する金属シールド等がうえで設け
られている。



梱包箱ごと製品を
販売する機会が少
なかったデンソー
にとって、「見せと
いうのも従来の
試みだったとい
う。それほど新
しく、画期的な
製品でもあった。